

平成16年度第4回経営協議会議事要録

日 時：平成16年9月16日(木) 14:00～16:00

場 所：特別会議室(事務局3階)

出席者：崎元 達郎、足立 啓二、小野 友道、平山 忠一、大迫 靖雄、長木 正治、
良永彌太郎、谷口 功、三池 輝久、稲垣 精一、井上 孝美、江口 吾朗、小堀 富夫、
園田 頼和、田川 憲生、星子 邦子、丸野香代子、鎌水 洋

欠席者：小田切優樹、平田 耕也

議事要録の確認

第3回会議議事要録の確認があった。

議 事

1. 熊本大学の運営について「テーマ：研究、産学連携、社会貢献関係」

小野理事から、テーマ「研究、産学連携、社会貢献関係」として、資料1に基づき、『「知」の創生と「知」の還元』を課題に説明があり、本学における研究及び産学連携等の在り方等に関し、意見交換が行われた。

主な意見は、以下のとおりである。

- ・大学においては「ものづくり」と共に「ことづくり(人づくり)」が重要な使命である。
- ・研究の継続性の観点から、萌芽的研究についても将来的には拠点研究へ発展できるよう、育成に努めるべきである。
- ・知的財産の活用については、経営力のある民間人の登用等、学外者との連携が必要不可欠である。
- ・研究体制については、今後は他の研究機関の研究者との連携協力が必要である。
- ・中央で多くの研究者が切磋琢磨して行っている世界的研究でも、間違った方向で走っている場合も多々ある。自分の思うところをじっくり研究できるのが地方大学の利点であり、その研究成果は残していかなければならない。
- ・世界的研究者が居るのか。居るのであれば高等学校等を含めた外部へ積極的にPRすべきである。
- ・「ものづくり」、「金づくり」が中心のように見える。教育、地域貢献にも力をいれるべきである。
- ・「生命科学」とその裏付けとしての「生命倫理」を併せた「立体的取組」で特化を進め、PRすればどうか。
- ・大学として特定の分野に特化することと、それ以外の通常の研究を行うことの2本の柱が重要である。
- ・研究の実績・内容等について、ホームページを最大限に活用し、PRに務める必要がある。

報告連絡

1. 平成16年度長期借入金の借りに関して

事務局から、資料2に基づき、平成16年度における医学部附属病院再開発に係る経費の借入について説明があった。

2. 平成17年度概算要求について

議長から、平成17年度概算要求事項については8月31日に文部科学省から財務省へ提出された旨報告があり、次いで事務局から、資料3に基づき、本学に係る要求事項の概要について説明があった。

以上

次回開催予定日：平成16年11月18日(木)14時

< 配布資料 >

資料1 「知」の創生と「知」の還元

資料2 平成16年度長期借入金の借り入れについて

資料3 平成17年度概算要求(新規事項)について他